

令和 3 年 10 月 22 日

市（区）町村・一部事務組合
容器包装リサイクル ご担当者 様

公益財団法人日本容器包装リサイクル協会
PET ボトル事業部

PET ボトル分別基準適合物の指定法人への円滑な引き渡しをお願い

容器包装リサイクル法（以下、容リ法）は、消費者が分別排出し、市町村が分別収集・選別保管し、事業者が再商品化するという 3 つの主体間の協力のもとに成り立っています。

改正容器包装リサイクル法の基本方針で、「分別基準適合物の指定法人への円滑な引き渡しが必要である」と定められました。この容リ法に則り、指定法人への使用済み PET ボトルの円滑な引き渡しへのご協力をよろしくお願いいたします。

1. PET ボトルリサイクルの現状と課題

令和 2 年度、全国の市町村及び一部事務組合から指定法人への使用済み PET ボトルの引き渡し量は約 22 万 7 千トンとなり、平成 21 年度以降、引き渡し量は安定した数値となっております。これは、改正容リ法の基本方針に「市町村により分別収集された使用済み PET ボトル等については、指定法人（公益財団法人日本容器包装リサイクル協会）への円滑な引き渡しが必要」との文言が加えられ、その重要性を市町村及び一部事務組合ご担当の皆様方にご理解いただいた結果であると考えております。

一方、令和 3 年度分別収集計画の全国計が約 31 万 3 千トンであるのに対して、指定法人への申込量は約 22 万 8 千トンであり、消費者の協力のもと市町村が分別収集した使用済み PET ボトルの約 3 割が依然として指定法人以外で独自処理される予定となっております。

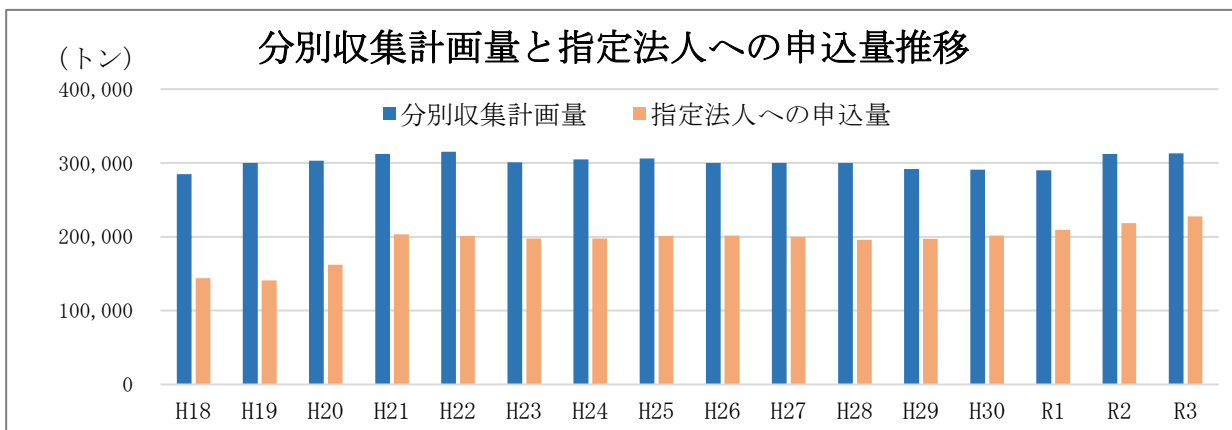
独自処理をされた使用済み PET ボトルの一部が海外に流出しているという実態の中で、輸出先の大部分を占めていた中国が、平成 29 年 12 月末から使用済み PET ボトルを含む固体廃棄物の輸入禁止措置を実施しました。その後は近隣諸国に振り替わり、輸出が継続されておりますが、同様の理由から輸入禁止を実施した国も出ています。また、令和 3 年 1 月からのバーゼル条約改正により、使用済み PET ボトルを輸出する際の該非判断基準が定められました。

更に、昨今のバージン PET 樹脂価格の下落に加え、国内外における新型コロナウイルスの感染拡大による社会経済活動の変化も発生しており、一時は再商品化製品販売が低迷するなど資源循環活動への影響も出ています。

このような状況を受けて、指定法人ルートの令和 2 年度上期において、一部の事業者から引取辞退が発生しましたが、指定法人登録事業者の総力により確実な引き取り及び再商品化を継続しております。独自処理市町村においては落札価格の変動リスクだけでなく、引取辞退や入札の不調等により使用済み PET ボトルの引き渡し先が見つからなくなるリスクが懸念されます。

一方で、令和 3 年度下期入札においては、平均落札単価が -7,923 円/トン(令和 3 年度上期)から -4 万 2,949 円/トンと有償が膨らみ、逆有償比率が全体の 23%(令和 3 年度上期)から 2%と減少しています。

環境省からの「国際動向を踏まえた廃ペットボトルの指定法人への引渡し促進について（依頼）」（環循総発第 1711011 号）（参考資料①）においても、独自処理をしている場合に安定確実なリサイクルがなされないリスクが懸念されており、資源の有効利用や再生材の適正処理の確保等の観点から、国内循環産業を育成し安定的な国内循環を推進していくため、指定法人ルートでの量的拡大は大きな課題です。



2. 指定法人ルート引き渡しの優位性

円滑な引き渡しを更に推進し、指定法人ルートを確保することには以下3点のメリットがあります。

(1) リスク回避

当協会の入札により落札し、契約を締結した再生処理事業者が何らかの事情によって分別基準適合物の引き取りができなくなった場合には、当協会が速やかに他の登録事業者への振替を行いますので、該当する市町村自らが代替事業者を探す必要もなく、引き取りが滞ることを避けられます。

(2) 指定法人による再商品化の管理

当協会が行う再商品化は、厳格な審査に合格した登録事業者を対象に行う競争入札で委託先が決定され、実際の再商品化業務についても毎月の操業状況の報告の義務付けや、当協会による現地検査での操業管理状況の確認や指導を行っています。更に再商品化製品（フレーク、ペレット等）が実際に個々の利用業者に納入された実績をもとに再商品化されたことを確認しています。

(3) 再商品化に関する情報開示

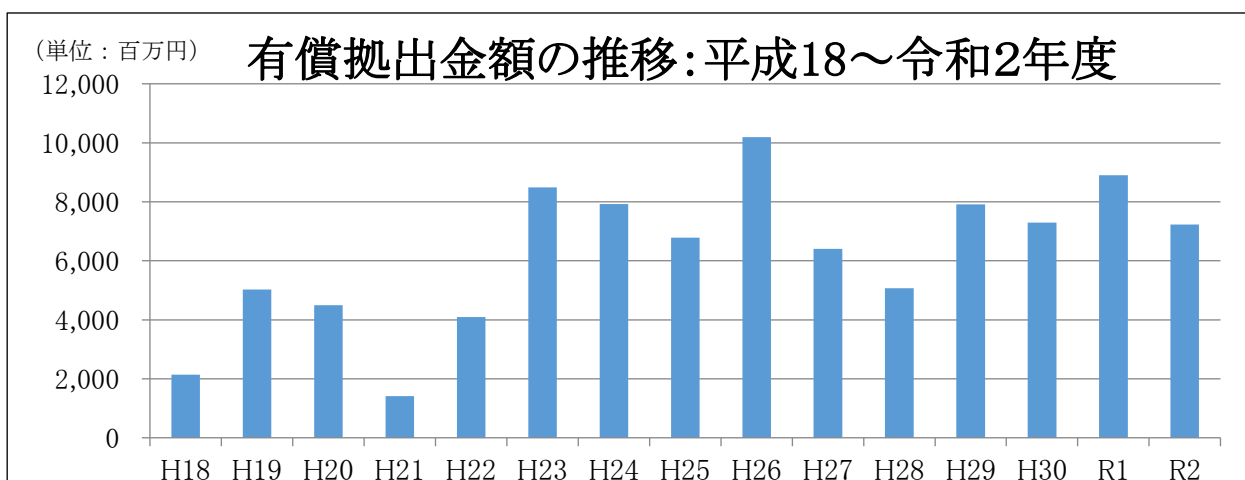
上記(2)のように徹底した再商品化の管理を行い、その結果を当協会のホームページで公開しております。例えば、落札に関しては個々の市町村（保管施設）ごとの落札事業者と落札単価の一覧、再商品化製品の販売実績については、「わたしのまちのリサイクル」のコーナーで個々の市町村が引き渡した使用済みPETボトルが何に生まれ変わっているかを、市町村ごとの実績に基づいて分かりやすく公表しています。また、市町村が引き渡した使用済みPETボトルが、実際に再生処理事業者でどのように再商品化されているかの状況を市町村のご担当者が直接確認できる「現地確認」の制度もあります。

※容リ法第3条第1項の規定に定める基本方針では、分別された容器包装廃棄物の再商品化のための指定法人への円滑な引き渡しとともに、市町村の実情に応じて指定法人へ引き渡さない場合には、適正処理の確認・住民への情報提供の実施が必要であると定められています。独自処理の場合には、当協会が行っているこれらの確認や情報提供を、市町村自ら行う必要があります。

3. 有償入札分は全額を市町村に拠出

平成18年度より、再生処理事業者の有償入札によって当協会が得た収入相当額は、年度期初（PETボトルの場合は上期又は下期）の契約単価が有償である市町村を対象として、引き渡し量と契約単価に基づいて消費税分を除いた全額を該当する市町村へ「有償拠出金」（寄付金）として拠出されます。

市町村へ拠出した金額は、直近3年間で平成30年度は約73億円、令和元年度は約89億円、令和2年度は約72億円となりました。市況や入札状況により年度ごとに増減しますが、お申込みいただいた市町村へ確実に拠出させていただいております。



なお、各市町村の有償拠出金の計算式は下記のとおりです。

< PETボトルの有償拠出金の計算式 >

$$\text{上期拠出金額} \times \frac{\text{各市町村の「上期初契約委託単価} \times \text{上期協会引取量」}}{\text{各市町村の「上期初契約委託単価} \times \text{上期協会引取量」の全国計}} +$$

$$\text{下期拠出金額} \times \frac{\text{各市町村の「下期初契約委託単価} \times \text{下期協会引取量」}}{\text{各市町村の「下期初契約委託単価} \times \text{下期協会引取量」の全国計}} - \text{振り込み手数料}$$

※上期・下期の拠出金額は有償入札によって当協会が得た収入から次年度納税するため消費税額を控除した金額を原資としております

※有償拠出金は上記の計算式のとおり、期初の契約単価を基に計算されますので、例えば期中に再生処理事業者の事業撤退等で事業者の振替が発生して契約単価が低くなくても、該当する市町村のみが減額されることはありません（拠出金の原資である拠出金額には多少の影響が出ます）。

以上の点をご理解いただき、我が国のPETボトルリサイクルシステムの強化・安定化のために、指定法人への円滑な引き渡しをお願いいたします。

以上